

第46回公文書研究会を滋賀県と共催にて下記のとおり開催しますので、ご参加ください。ご案内申し上げます。

第46回公文書研究会

■と き 平成26年11月14日（金） 午後1時30分～4時00分

■ところ 滋賀県庁 新館7階 大会議室
JR琵琶湖線大津駅北口より東へ300メートル



■テーマ 「地方自治の黎明 ー明治期滋賀の町村のかたち ー」

■報告者 高久 嶺之助 氏（京都橋大学教授）

■内 容 滋賀県が保有する歴史的文書（公文書）は、一群の資料として良好な状態で保存されており、平成25年3月には県指定有形文化財にも指定されています。これら貴重な文書は、過去に起こった出来事を知るにとどまらず、今日の県政の課題を考える上で重要なものです。

滋賀県県政史料室では、シリーズ「歴史的文書を考える」をテーマとして、毎年講演会を開催されており、平成24年度より近畿部会も共催しており、今年度は公文書研究会として、開催いたします。

今年は「地方自治」をテーマとし、講師の高久嶺之助氏より、明治以降の地方行政のあり方を歴史のお話しいたします。高久氏は、滋賀県内の複数の自治体史で近代編の執筆を担当されています。

講演後は県政史料室の展示室等を見学させていただきます。

◎滋賀県県政史料室の展示

題 目 滋賀県会のはじまり
期 間 平成26年11月10日（月）～平成27年1月22日（木）
時 間 9時～17時 （土、日、祝日は閉室）
場 所 滋賀県庁新館3階 県政史料室

☆☆

第126回例会報告

日 時：平成26年8月7日（木）14時00分～
場 所：大阪市立総合学習センター 第8研修室
参加者：8名

テーマ 「わたしの歴史」と「わたしたちの歴史」
ーサンフランシスコ GLBT 博物館を事例としてー

報告者の藤吉圭二（高野山大学）氏より、アメリカのサンフランシスコにある、GLBT（ゲイ・レスビアン・バイセクシャル・トランスジェンダー）歴史協会をご紹介いただき、この協会により2011年に設立されたGLBT歴史博物館を中心に、オーストラリア戦争記念館などの施設を訪問された際の写真と調査内容をご報告いただいた。

GLBT博物館は、ゲイタウンとも呼ばれるサンフランシスコにおいて、GLBTの人々が作った民間の歴史協会が設立した博物館である。その内容は、実際に性的なマイノリティとして様々な差別や暴力を受けてきた当事者達が、その当事者の手で作り上げた博物館であり、ポジティブな歴史だけではなく、ネガティブな差別や暴力事件や、それに関わるたくさんの現物資料（個人情報を含む）・画像・映像によって作られている。その中には日系人の姿もあった。

これらの活動を支えているものの多くは、個人的なボランティアや寄付、さらに運営の根幹には口を出さない企業からの寄付などによって成り立っているそうである。日本にはほとんど根付いていない、「わたし」自身が繋がって「わたしたちの歴史」を遺そうとする文化がアメリカでは根付いている。しかし、同時にこうした動きが決して万全で力強いものであるわけではないことも付け加えられている。

これらの博物館等は、いわゆるアーカイブズそのものではないが、歴史資料を遺すことの意味、また、差別・暴力・個人情報などを超えてどのように資料を利活用されるべきなのか、などを考える機会をいただいた。

報告後質疑応答が行われたが、その中では、日本ではこれまで研究者などの個人的な手によって遺されてきた、現実の社会を示すさまざまな民間資料があること。今後どのような形で遺されていくべきなのかは大きな課題であること。などが話し合われた。

（事務局 金原祐樹）